

I. 長期戦略テーマ別帳票

テーマ「研究者の輩出」

提出日 2019年 8月 8日

長期戦略テーマの責任者
(統轄部署)副学長(総括)
小菅 正伸
(学長室(院))

1. 長期戦略のテーマ

超長期ビジョン	長期戦略(テーマ名)	統轄部署
2 大学院教育	(1) 研究者の輩出	学長室(院)
内容		
<p>本大学大学院は、研究者の輩出を最重要課題の一つと位置づけ、最終的に約9割が常勤の研究職に就く日本学術振興会の特別研究員制度の採用者数増加のための支援に取り組む。その一つとして、研究者への進路選択やその前提となる大学院進学に対する心理的な障壁となっているキャリアパスの見えにくさを解消するため、本大学大学院では新たな任期制助教の制度を設け、特別研究員採用者は後期課程修了後の雇用を保証する。これはPD採用者として学外機関に一旦就職した者も対象とする。このことにより、後期課程修了後のキャリアの準備に追われることなく研究に専念できる環境に身を置くことが可能となり、後期課程における十分な研究活動や、ランバス留学基金を活用した留学等を通じて研究者としての資質を磨く期間が創出される。主な対象を特別研究員採用者に絞ることによって、より人数を絞った少数精鋭の教育環境の構築をめざす。また、特別研究員には採用されていないが、将来研究職に就くことができる資質を備えていると研究科が判断した者については、当面の間、上記任期制助教の採用対象には含まない。</p> <p>任期制助教の採用枠新設はST比の改善に直結し、学部科目を担当することによって専任教員の負担軽減につながるほか、論文産出数増加への寄与も期待される。</p> <p>特別研究員への申請は、過去の事例から複数回の申請を経験することによって審査結果が改善されていることから、まず、申請時期である前期課程2年の5月までに申請書類を十分に吟味して適切な内容とするべく指導教員が支援する。併せて、採用者を輩出した指導教員には学部科目担当免除や大学院授業の責任コマ数への算入増加、特別研究期間等の学部内推薦の優先などの方策を検討する。特別研究員不採用者についても、高評価であった者に限り本大学から経済的援助や研究活動に係る経費への補助を行い、引き続き特別研究員(DC2・PD)採用に向けた支援を行う。</p> <p>これら支援策の財源は、現在教務機構や研究推進社会連携機構に分散している奨励金制度等を統合・再構築することで捻出する。</p> <p>支援は前期課程に進学する前段階から進める必要があり、他大学院への流出を防ぐ「囲い込み」も兼ねて学部4年次(飛び級などの場合は3年次)から開始する。</p> <p>また、学士・修士を5年(または4年)で修了できるなど、学士・修士・博士の幾つかの組み合わせで期間短縮を織り込んだ一貫コースの設置も検討する。</p>		

指標1

指標	内容					
指標名	博士学位授与数					
定義・算式	博士学位の授与数(年次報告) ※ただし乙号を除く					
現状値 (指標設定時)	34人(2017年度春:10、2017年度秋:24 ←乙を除いた数値) / 定員:82					
目標値	フェーズ1終了時(2021年度)		フェーズ2終了時(2024年度)		フェーズ3終了時(2027年度)	
	60人		70人		88人(博士課程後期課程の入学定員数82人+理工設置分6人)	
実績値	2019年度		2022年度		2025年度	
	2020年度		2023年度		2026年度	
	2021年度		2024年度		2027年度	

I. 長期戦略テーマ別帳票

テーマ「研究者の輩出」

提出日 2019年 8月 8日

長期戦略テーマの責任者
(統轄部署)

副学長(総括)
小菅 正伸
(学長室(院))

指標 2

指標	内容					
指標名	研究者輩出数					
定義・算式	博士課程後期課程修了者のうち10年以内に専任の研究者(主に大学教員)に採用された累計人数。 特別研究員採用者数=新たな任期制助教採用者数=研究者輩出数とする。 <特別研究員採用者の目標値> 2019年6人、2020年6人、2021年6人、2022年7人、2023年7人、2024年8人、2025年8人、 2026年9人、2027年10人					
現状値 (指標設定時)	— (把握できず)					
目標値	フェーズ1終了時(2021年度)		フェーズ2終了時(2024年度)		フェーズ3終了時(2027年度)	
	6人(2018~2021年度の累計) ※新たな任期制助教制度は 2021年度から開始予定		28人(2018~2024年度の累計)		55人(2018~2027年度の累計)	
実績値	2019年度		2022年度		2025年度	
	2020年度		2023年度		2026年度	
	2021年度		2024年度		2027年度	

指標 3

指標	内容					
指標名	特別研究員採用者数					
定義・算式	日本学術振興会の特別研究員(DG1、DG2、PD)の採用者数(年次報告)					
現状値 (指標設定時)	4人(学外に出たPDを把握できていない)					
目標値	フェーズ1終了時(2021年度)		フェーズ2終了時(2024年度)		フェーズ3終了時(2027年度)	
	6人		8人		10人(文系5人理系5人)	
実績値	2019年度		2022年度		2025年度	
	2020年度		2023年度		2026年度	
	2021年度		2024年度		2027年度	

I. 長期戦略テーマ別帳票 テーマ「研究者の輩出」

提出日 2019年 8月 8日

長期戦略テーマの責任者 (統轄部署)	副学長(総括) 小菅 正伸 (学長室(院))
-----------------------	------------------------------

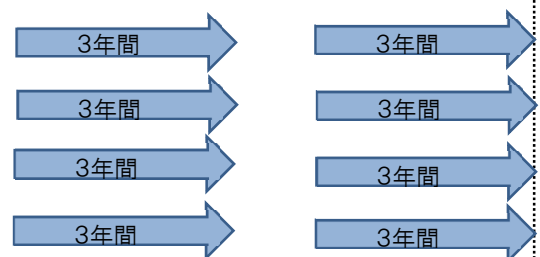
2. 実施計画ロードマップ

実施計画		担当部署	学部・研究科での 取組み有/無	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027
①	特別研究員採用者増のための支援策実施	研究推進社会連携機構	必要なし	3年間								
②	大学院活性化の施策	学長室(院)	必要なし	3年間								
③	新たな任期制助教制度の設置	学長室(院) -(人事)-	必要なし	3年間								
④			必要の有無を選択ください。									
⑤			必要の有無を選択ください。									
⑥			必要の有無を選択ください。									
⑦			必要の有無を選択ください。									
⑧			必要の有無を選択ください。									
⑨			必要の有無を選択ください。									
⑩			必要の有無を選択ください。									
【備考欄】												

※想定される実施計画の例示

- ① 特別研究員採用者増のための支援策実施
- ② 特別研究員採用者の指導教員対象施策検討
- ③ 奨励金等の統合・再構築
- ④ 特別研究員不採用者への施策検討
- ⑤ 学士・修士5年(4年)一貫コース設置の検討
- ⑥ 新たな任期制助教制度の設置
- ⑦
- ⑧
- ⑨
- ⑩

※ロードマップ策定作業用記号



I. 長期戦略テーマ別帳票

テーマ「研究者の輩出」

提出日 2019年 8月 8日

長期戦略テーマの責任者
(統轄部署)

副学長(総括)
小菅 正伸
(学長室(院))

3. 本長期戦略テーマの各実施計画に関する費用、人員の合計 (2019年度～2027年度)

◆フェーズⅠ：2019年度～2021年度

費用計画・人員計画 (単位：万円)	2019年度	2020年度	2021年度
経費合計	非公開		
人件費合計			
総計(経費+人件費)			

◆フェーズⅡ：2022年度～2024年度

費用計画・人員計画 (単位：万円)	2022年度	2023年度	2024年度
経費合計	非公開		
人件費合計			
総計(経費+人件費)			

◆フェーズⅢ：2025年度～2027年度

費用計画・人員計画 (単位：万円)	2025年度	2026年度	2027年度
経費合計	非公開		
人件費合計			
総計(経費+人件費)			

I. 長期戦略テーマ別帳票

テーマ「研究者の輩出」

提出日 2019年 8月 8日

長期戦略テーマの責任者
(統轄部署)

副学長(総括)
小菅 正伸
(学長室(院))

4. 進捗状況等記入欄

	進捗状況および今後の課題、方向性
2019年度	
2020年度	
2021年度	
2022年度	
2023年度	
2024年度	
2025年度	
2027年度	